

クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

テラ・ルネッサンス

平和を想う「こころ」を平和な社会をつくる
「ちから」に変えるために

団体概要

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンスは、「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」を目的に二〇〇一年一〇月に設立された団体です。団体名称の「テラ」はラテン語で「地球」を、「ルネッサンス」は英語で「復興・再生」を意味します。

地雷・小型武器・子ども兵という三つの課題に対して、現場での国際協力と同時に国内での啓発・提言活動を行うことにより問題の解決を目指しています。活動地域は、カンボジア、ラオス、ウガンダ、コンゴ民主共和国、日本の五カ国で、日本（京都）、カンボジア（バタンバン）、ウガンダ（グル）の三カ所に事務所があります。

設立以来、カンボジアでの地雷除去支援、女性義肢装具士の育成、ラオスでの不発弾除去支援、ウガンダやコンゴ民主共和国の元・子ども兵の社会復帰支援、小型武器の不法取引規制キャンペーン、日本国内での平和教育に取り組んでいます。

活動内容

〈国際協力事業〉

・カンボジア

二〇〇年近く内戦が続いたカンボジアには、現在でもまだ四〇〇万〜六〇〇万個の地雷が埋められたままになっているとされています。このため、本会では、カンボジアで活動する地雷除去団体MAG (Mines Advisory

Group) に対し、地雷除去資金や地雷除去に使用する金属探知機の提供を行ってきました。

また、地雷除去後の村では、住民組織による健康保険制度や奨学制度の設立など、住民の生活向上のためのプロジェクトを実施するとともに、二〇〇八年にはカンボジアに駐在スタッフを派遣し、小学校建設プロジェクトにも取りかかりました。この小学校が完成したことにより、これまで雨季には増水した水で道が寸断されて学校に通えなかった子ども達（約九〇人）が雨季にも学校に通えるようになりました。

カンボジア義肢装具士養成学校の女子学生へ奨学金の提供を始めたのは二〇〇四年で、既に一人が同学校を卒業して義肢装具士として働いています。現在は二人目の奨学生に奨学金を提供しており、彼女は今年九月に卒業予定です。

・ラオス

カンボジアの隣国であり、ベトナムと国境を接するラオスには、ベトナム戦争中、アメリカ軍によって二〇〇万tを超す爆弾が落とされ、現在でも多くの不発弾が残っています。本会では二〇〇八年より、ベトナム国境に近いシエンクアン地区において、不発弾除去と撤去後の土地に中学校を建設するプロ



↑昨年秋に完成した新しい小学校の教室で勉強する子ども達（カンボジア・バタンバン州サムロン・チェイ村）

(特活) テラ・ルネッサンス

〒612-0031 京都府京都市伏見区深草池ノ内町5-23-105

TEL & FAX 075-645-1802

e-mail : contact@terra-r.jp URL : http://www.terra-r.jp

ジエクトを開始しました。昨年末にはラオスの地雷除去団体MAG-LAOによる不発弾撤去作業も終了し、二〇〇九年春の完成に向けて中学校建設が進んでいます。

・ウガンダ

アフリカ東部のウガンダでは、北部地方で続いた内戦により、一九八六年から約二十万人の子どもが反政府勢力に誘拐され、兵士となっていきました。このような子ども兵士のことを子ども兵（一八歳未満の少年・少女兵）と呼び、世界には確認されているだけでも三〇万人の子ども兵がいるとされています。元・子ども兵は、貴重な子ども時代を軍隊で生活したため、除隊後も仕事を不得た社会復帰を果たすことが大変困難な状況にあります。

本会では二〇〇五年よりウガンダに駐在スタッフを派遣し、ウガンダ北部で、元・子ども兵に対する社会復帰プロジェクトを開始しました。現在までに九一名の元・子ども兵を受け入れています。このプロジェクトでは、帰ってきた元・子ども兵達が必要としているトラウマケアや、自立していくための職業訓練などを行っており、初めは暗い表情をしていた元・子ども兵達も、カ



↑ウガンダの紛争を考える世界同時開催イベント「Gulu Walk」に参加するウガンダ事務所のスタッフと元子ども兵

ウンセリングや職業訓練を受けていく中で、いきいきとした表情を見せるようになってきました。また、二〇〇五年より、ウガンダ小型武器行動ネットワーク(UANSA)と共催でセミナーやシンポジウムを開催し、一般市民への不法小型武器問題の啓発活動を行っています。

・コンゴ

ウガンダの西隣に位置するコンゴ民主共和国は、恵まれた天然資源をめぐっての紛争が続き、現在も三万人の子ども兵がいるとされています。このような中、本会では二〇〇七年より現地NGOのGRAM(Group of Research and Actions against Marginalization in Kivu)と提携して、元・子ども兵の社会復帰支援を行っています。これまで、GRAMに対してプロジェクト管理の指導やオフィス器具の提供、カロンゲ地区での元・子ども兵の社会復帰のための簡易施設の建設資材の提供などを行いました。また、不法小型武器問題と子どもの権利についての啓発ポスターを共同で二〇〇枚作成し、ブカブ市の行政機関や学校などに配布しました。

〈啓発事業〉

平和教育の活動として、理事長による講演を日本各地で実施しています。主なテーマは「地雷」「子ども兵」で、講演回数は年間一四〇回以上になっています。

二〇〇四年には日本小型武器行動ネット

ワーク(JANSA)設立に参加し、同年には小型武器の不法取引規制に関するキャンペーンを実施しました。その他、各種イベントへの参加、本会主催イベントの開催などを通じて課題啓発の活動に取り組んでいます。

また、地雷・子ども兵に関するパネルを製作し、学校の文化祭やイベントへの貸し出しを行っています。パネルに関しては、現在新たにクラスタ爆弾のパネルを製作中です。

〈ファンドレイジング〉

海外事業費の拡充を図るため、書き損じハガキやインクカートリッジの回収を行うとともに、ウガンダコーヒーの販売を行っています。また、気軽にできる社会貢献の場の創造ということで、募金箱事業も行っています。企業や学校で書き損じハガキの回収に取り組んでいただくなど、これらの活動が国際協力の一つの形として定着しつつあります。

おわりに

地雷・小型武器・子ども兵。これらの課題が抱える問題は根深く、解決する日がいっになるのが、分かりません。しかし、私達は希望を失っていません。今の自分にできることを一つ一つ着実にやっていくことが問題の解決につながっていくと考えています。私達は一人ひとりに未来をつくる力があると信じています。今が変わればきっと未来も変わる。想いを「ちから」に変えるために、私達と一緒に一歩を踏み出してみませんか？

クローズアップ

NGO・NPO

タイ王国財団法人

バーンロムサイ

命との闘い～自立に向けて～ そしてこの先の10年へ

一九九九年二月、タイ北部チェンマイ郊外に設立されたHIV母子感染孤児のための生活施設「バーンロムサイ」は、代表 名取美和の当初からの方針で、単なる「孤児院」ではなく、子ども達が安心して暮らせる「家」となるようにと、現在五歳から一七歳三人の子ども達が暮らし、タイから福祉施設として認可された財団法人として活動を続けています。

しかし、開設から三年間は命との闘いの日々でした。肺炎、結核、下痢、ヘルペス…、必死の介護もむなしく結局一〇人の子ども達がエイズを発症し亡くなりました。当時は抗HIV療法がタイで確立されておらず、HIVに母子感染した子ども達の平均寿命は五歳と言われていた時です。

二〇〇二年、タイで認可された抗HIV剤が子どもの体にどのような影響を与えるか全く分からない中、もうこれ以上子どもを死なせたくないという思いで服用開始を決断、そしてこの薬はHIVウイルス値を下げ、CD4（免疫力数値）の値を上げ、心配されたひどい副作用もなく、それで降子ども達は誰一人エイズを発症して亡くなることなく元気に成長し始めました。しかし、一度服用を開始すれば彼らは、一日二時間ごとに一生薬を飲み続けなくてはなりません。一月に三回飲み忘れると薬の耐性ができると言われ、服用の継続と薬の耐性はすべてのHIV感染者にとつての大きな負担となっているのが現実です。

また二〇〇〇年、近所の小学校に入学後、父兄からエイズを理由に退学を余儀なくされましたが、その後理解ある教育者のおかげで、市内にある学校へ通い始めることができるようになりました。差別と偏見の根強さを思い知った時期でもあります。片道三分の通学時間、それでも子ども達は学校へ行き勉強ができることに大喜びでした。今では全員が幼稚園や学校に通っています。

二〇〇二年一〇月、抗HIV療法を開始して以降子ども達はエイズを発症することなく、私達は彼らが大人になれると確信し始めました。それはバーンロムサイが「子ども達を死なせずに一日でも長く生きてもらいたい」という時代から、「子ども達が自立し社会に出られるように育てていく」という時代に転換していくことになりました。バーンロムサイではこの先タイに暮らすタイ人である子ども達のこと、風習や礼儀作法なども含め、常に基本方針を確認しながら、タイ人スタッフに任せるようにし、いつかはタイ人が、できれば子ども達の誰かがこのホームを引き継いでほしい、またそれが海外で活動するNGOがやるべきことだと考えています。



↑絵を描いたりなど創作の時間も大切

が、できれば子ども達の誰かがこのホームを引き継いでほしい、またそれが海外で活動するNGOがやるべきことだと考えています。

(タイ王国財団法人) Ban Rom Sai (バーンロムサイ)

23/1 Moo4 T.Namprae A.Hangdong Chiangmai50230 Thailand
e-mail : info@banromsai.jp URL : http://www.banromsai.jp

TEL (66) 53-427434

三人の子ども達には三人の個性があり、一人ひとりが何か自信の持てるものを見つけて、できればそれを仕事として自立していつてくればというのが私達の願いです。そのため絵画、陶芸など子ども達にできるだけ多種多様なチャンスを作り、何かをつかみ取ってもらいたいと多くのボランティアの協力を得て開設当初から続けて来ました。タイ古典芸能専門学校で踊りを学ぶ子ども、自動車修理工になりたい、大学へ行きたい、日本へ留学したい、成長に伴い子ども達も夢を現実のものとするえ、自分達が得意なもの、好きなことで社会に出て生活してゆけるように具体的に考え始めています。

一方、全員がスムーズに自立して社会に受け入れられるとは限りません。彼らはHIVに母子感染した子ども達の第一世代です。前例のない中、強い薬の長期服用からどのような副作用が起るのか、薬の耐性、いまだ根強い社会での差別と偏見。子ども達の中には勉強が苦手な子ども、小さな障害を抱えた子どももいます。そして外で働くことが難



↑代表名取美和と子どもたち

しい子のことも考えて、バーンロムサイでは子ども達が働く場所をつくるプロジェクトを二〇〇一年から開始しました。それは同時に寄付だけに頼らず自分たちで運営費を稼ぐ、また子ども達にお金は天から降ってくるものではなく働いて得るものだとすることを、普段の生活の中で自然に学んでほしいとの考えからです。

その一つがホーム内にある縫製工場。山岳民族の古布、伝統的な織物、気持ちのよい布を使って衣類や雑貨を日本の展覧会やイベントで販売し、その売上を運営費へ、そして将来子ども達が縫製の仕事につけるよう土台が確立しつつあります。また、ホームの敷地内に寄付で建てていただいたゲストハウスも、たくさんの方に利用していただけるようになってきました。ここには掃除、食事、観光など多くの仕事が付随してきます。気に入ったものを買っていただく、心地よくお泊まりいただく、その売上が、宿泊料がタイの子ども達の支援となる。お金による寄付だけでは社会貢献の二つの形です。

また、ホーム内に寄付で建てていただいた図書館には、村の子ども達が本を借りに来たり、バーンロムサイの子ども達も一緒にエイズなどの啓発活動を行ったりと地域社会にも溶け込み、共に活動できるようになってきました。NGOとして地域社会とのつながり、そこから情報発信していくことは大変重要なことだと感じています。

今年で一〇年目を迎えるバーンロムサイ

は、この先の一〇年に向けて、バーンロムサイの活動を支えるNPO法人S3020 Togetherと共に、三人の子ども達の自立支援、タイや日本の中でのHIV/AIDS啓発活動とともに、新しい社会貢献の形を世の中に提案していければと考えています。

その一つがチェンマイにつくられた株式会社サイトーン。在タイ日系企業の経営者が有志を募り、資本金を寄付金と考え、利益を社会貢献に還元することを目的として設立されました。その最初のプロジェクト、レストランサイトーンは将来子ども達の職業訓練や働く場所となることを目標にスタートをきりました。この先、有機栽培など環境に考慮したプロジェクトも展開し利益を社会に還元できたらと思っています。

お金がうまく流れるシステムを、各専門分野の個人や団体との横のつながりを有効に生かし、この辛い時代をチャンスととらえ、バーンロムサイのこの一〇年の実績を礎に、新しい社会貢献の形をこの先の一〇年、提案し続けていきたいと考えています。



↑薬を飲み続ければ、元気に成長してゆけることができます